

縁	世田谷区立砧中学校 校長室だより 令和5年 1月30日 第 53 号 校長 大坂 崇	教育目標 「豊かな人間性の育成」 ◎ 集団生活における責任感と自主性を養う ◎ 健康な心身の育成と勤労の喜びを培う ◎ 基礎学力の充実を図り深く考える姿勢を育てる		
		社会性の学び	知的な学び	心と体の学び
		自他の尊重 地域貢献	主体的な学び 学習の定着	心身の健康

全体と個々

論理的・論証的思考 と 年度末総括・授業改善

1 アローのジレンマ

あるお店では、同じ果物が3つずつ袋詰めにして売られています。

A君、B君、C君の3人が、このお店の前でりんご、梨、桃、のどれを買うか話しています。

A：僕は、りんごより梨が好き、梨より桃が好き、だからりんごより桃が好き

B：僕は、桃よりりんごが好き、りんごより梨が好き、だから桃より梨が好き

C：僕は、梨より桃が好き、桃よりりんごが好き、だから梨よりりんごが好き

グループの意見として結論をまとめる

りんごと梨 りんごより梨が好きな人2人、梨よりりんごが好きな人1人

⇒ グループの判断としては「りんごより梨が好き」

梨と桃 梨より桃が好きな人2人、桃より梨が好きな人1人

⇒ グループの判断としては「梨より桃が好き」

この2つの結果をまとめると「グループとしては」

「りんごより梨が好き」「梨より桃が好き」 だから 「りんごより桃を買おう!!!」

でも、個人の意見をよ～く確認すると

桃とりんご 桃よりりんごが好きな人2人、りんごより桃が好きな人1人

だったら「りんごを買ったほうがいいんじゃないかなあ?！」

個々の合理的選択と全体の合理的選択は一致するとは限りません

2 ケインズのジレンマ

ある町に住むDさんは、将来に備えて「貯蓄」をして、高額の貯金をしました。

これを見た同じ町に住む人たちは、「これはとても良いことだ」と考え、みんな「貯蓄」するようになりまし。

すると、町の消費は激減し、物が売れなくなりました。働き口を失う人も増え、収入の減った人・無くなった人が増え、町全体が貧しくなっていました。

みんな、自分にとって一番いい方法と思っていたことが、町全体としては最悪の結果になってしまいました。

個々の合理的選択が、全体にとって不合理となることもあります

3 全体と個

1 ①「犬は哺乳類である」 ②「柴犬は哺乳類である」

2 ①「ドイツは国である」 ②「ベルリンは国である」

1の①・②は、両方とも正しい文章です。2では、①は正しいですが、②は正しくありません。

それぞれの文章の主語は、1では「犬」と「柴犬」で柴犬が犬の一部、2では「ドイツ」と「ベルリン」でベルリンがドイツの一部。1も2も、文章のつながりは、同じ構造をしています。

それなのに、1では両方の文章が正しく、2では①だけが正しい、なぜでしょう?

1の①は「犬」という全体の集合の『個々の犬』に関する文章です。2の①は「ドイツ」という『全体の集合そのもの』に関する文章です。

物事を判断する時、

全体に関してだけ成立するのか、その中の個のすべてに成立するのか、明確な区別が必要です



4 年度末総括や授業分析を行う場合に留意すること

1 「個々に関する課題」なのか、「全体に関する課題」なのか

2 「個々の改善」と「全体の改善」が一致しない場合、その課題ではどちらを優先するのか

3 「個々の改善」が「全体の不合理」となる場合、または、「全体の改善」が「個々の不合理」となる場合、どのように決着をつけるか

4 意見の違い（複数意見）を整理する基準は、「どの意見が多いか（多数決）」ではなく、「何が大切なか（優先順位）」（最優先事項を全員で共有）